

第3部
基調講演

次期学習指導要領改訂に向けて
今から始められること

3月31日に次期学習指導要領が公示された。2018年に幼稚園、2020年に小学校、2021年に中学校、2022年に高等学校と順次改訂が実施されるが、今回の改訂はどういう意図でおこなわれ、どういうコンセプトを持っているのか。文部科学省教育課程課課長補佐(併)学校教育官の金城太一氏に講演していただいた。

文部科学省 教育課程課 課長補佐(併) 学校教育官の金城太一氏



いきます。すなわち、多様な文章をもとに複数の情報を統合し、構造化して考えをまとめる能力を養っていくことが大切であり、学習指導要領と入試改革を同時に進めていく方針です。

次に、学習指導要領の改訂についてです。改訂は10年に1度のペースでおこなわれていますが、今回の改訂の背景には、「科学技術が進歩しても目的を考えるのは人間」という考え方があります。みんな学び合い、協力しながら一定の解決策を見出す教育活動は、今まで我が国の学校教育の強みです。その質をさらに高めようというのが改訂の大きな方向性です。

また、これからの教育課程においては学校のなかだけで閉じず、社会とつながっていくことが大切です。一方的にインプットして終わりではなく、社会に役立っていく。そのために、学ぶ内容や学び方を再整理しました。先生方には子供たちが「何ができるようになるか」を意識してもらいながら、もう一度学びのプロセスを見直してもらいたいと思います。



基調講演では、次期学習指導要領改訂の意図やコンセプトについて話した

要なのです。毎時間アクティブ・ラーニングの視点を網羅するのでなく、単元全体で授業を見直していただければと思います。

私は2年間鹿児島県に出向して、大小様々な学校を見てきました。どんな場所に暮らす子供に対しても、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育が提供できるよう支援していくつもりです。塾や教材会社など手を取りながら、次期学習指導要領が全国津々浦々に浸透するよう努力したいと思います。

第4部
パネルディスカッション

予測不能な時代に求められる
スキルの育成

第4部ではパネルディスカッションがおこなわれた。パネリストとして迎えられたのは、第3部で講演をおこなった金城太一氏、国際科学教育協会代表理事で、子どもの理科離れをなくす会の北原達正代表、一般社団法人ICT CONNECT 21の寺西隆行事務局次長、株式会社栄光 業務支援本部の長島雅洋本部長、株式会社イングの青木崇幸代表の5名だ。モデレーターはフューチャーインスティテュート株式会社の為田裕行代表を務めた。

為田 まずは自己紹介と、次期学習指導要領の方向性に対する意見をお聞かせください。

北原 私は以前、京都大学で宇宙研究をしていましたが、このままではうちの学生は就職できないのではないかと。そう思い、15年前に国際科学教育協会を立ち上げました。次期学習指導要領の、学びの整備をしていくという方向性は、素晴らしいと思っています。

寺西 ICT CONNECT 21は教育の情報化を推進する団体です。次期学習指導要領についてのパブリックコメントを全部読みましたが、ほとんどの意見が賛成でした。

らしいと思っています。特にICTを活用するのは大変いいアイデアです。しかし、果たしてそれができるのか。皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

た。今回の改訂は系統的な学習を大切にしながらも、子どもたちにも新たな経験をしてもらい、未来を創っていく要素が強く、学び続ける主体を私たち大人が協力して育かなければと感じています。

長島 栄光は首都圏で約380教室、全国で約440教室展開している学習塾で、私は指導システムの設計に携わっています。学習指導要領の改訂は当然大きな影響を受けますが、塾でアクティブ・ラーニングを導入するかどうかは、志望校合格にどれだけ必要かによって変わってくると思います。どういう立ち位置で指導すべきか、課題を突きつけられているように感じます。

為田 学校の先生の反応はいかがでしょう？

金城 今回の改訂は教科の本質に迫る改訂なので派手さはないかもしれませんが、未来社会を担う子供たちがたくましく生きていくための力身に付けるようになると思います。

金城 今回の改訂が腑に落ちている先生と、そうでない先生がいますね。腑に落ちている先生は全く違ったことにチャレンジするのではなく、今までの教育実践をより深めるものだと捉えてきています。一方、腑に落ちない先生は、外の世界に何かヒントがあるんじゃないかと考



国際科学教育協会 代表理事で、子どもの理科離れをなくす会の北原達正代表



ICT CONNECT 21 の寺西隆行事務局次長

青木 1969年設立のイングは、